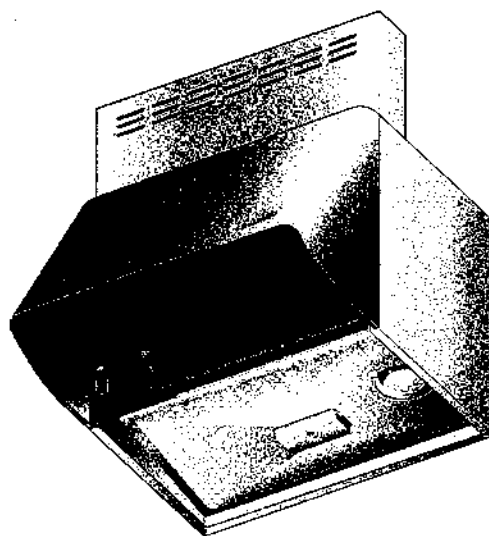


取扱説明書

レンジフードファン



もくじ

安全上のご注意.....	2・3
使用上のお願い.....	4
使いかた.....	5
各部のなまえ.....	5
スイッチ.....	5
お手入れのしかた.....	6～15
取りはずしのしかた.....	7
組み立てのしかた.....	8
お手入れのしかた.....	9
ファンのお手入れのしかた.....	10～12
前板の取りはずし・組み立てのしかた.....	13～14
ランプ交換のしかた.....	15
故障かなと思ったら.....	16
仕様.....	17
アフターサービス.....	17
修理を依頼されるときは.....	18
本製品の設計標準使用期間について.....	19

販売店・工事店様へ：

この取扱説明書は取り付け後、
施主様へ必ずお渡しください。

この説明書は再生紙を使用しています。

このたびはレンジフードファンをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
ご使用される前に必ずこの取扱説明書をよくお読みになり、正しくご使用ください。
お読みになったあとは取付説明書とともにいつでも見られるところに大切に保管してください。

1602 V181-B



安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。



警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。



注意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

絵表示の例



○ 記号は禁止行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



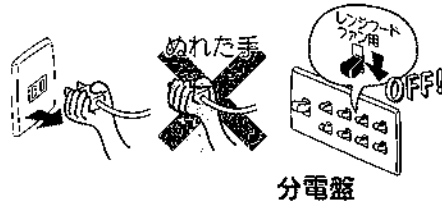
● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

警告



プラグを
抜く

- お手入れの際は必ず電源プラグをコンセントから抜く、または分電盤のブレーカを切ること
また、ぬれた手で抜き差し、入/切しないこと
感電やけがをすることがあります



分電盤



分解・修理
改造禁止

- 修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造はしないこと
火災・感電・けがの原因となります



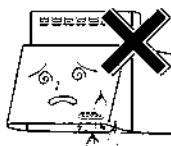
ほこりを
とる

- 電源プラグは、刃および刃の取付面にほこりが付着している場合はよく拭くこと
火災の原因となります



水かけ禁止

- 電気部品（モータ・スイッチ等）は、水・洗剤等の液体につけたりかけたりしないこと
ショート・感電のおそれがあります



操作禁止

- ガス漏れのときは、スイッチを入/切しないこと
爆発・引火のおそれがあります



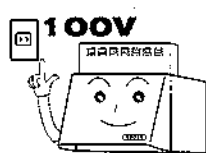
プラグを
抜く

- ランプを交換するときは、必ずスイッチを切るか、電源プラグをコンセントから抜くか、または分電盤のブレーカを切ること
感電することがあります



使用禁止

- 交流 100 V 以外では使用しないこと
火災・感電の原因となります



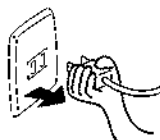
安全上のご注意

△ 注意



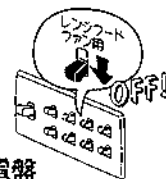
プラグを
持って抜く

- 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜くこと
コードに傷がつき、火災や感電の原因になります



プラグを
抜く

- 長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く、または分電盤のブレーカを切ること
絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になります

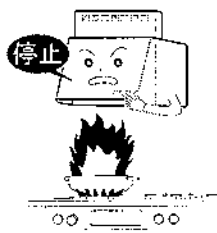


分電盤



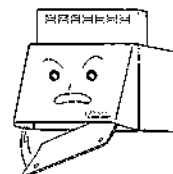
運転停止

- 調理中、油に火がついたときは、運転を止めること
運転をしていると、火の勢いがよけいに強くなり危険です



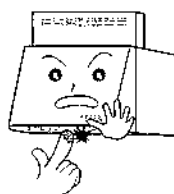
取付注意

- お手入れの際にははずした前板やファン、部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります



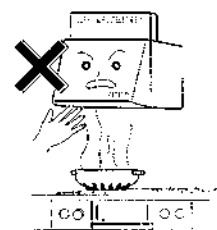
接触禁止

- 運転中は指や物を絶対に入れないこと
けがをするおそれがあります



接触禁止

- 調理中は、整流板や周辺の部品に手を触れないこと
整流板や部品が落下して、やけどやけがをすることがあります



手袋をする

- お手入れの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります



使用禁止

- 本体に異常な振動が発生した場合、使用しない
本体・部品の落下によりけがをするおそれがあります



使用禁止

- 指定以外のランプを使わないこと
ランプカバー周辺が高温となり、やけどのおそれがあります



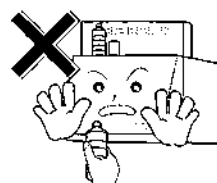
高温注意

- ランプの交換は、ガラスやランプが十分冷めてからおこなう
やけどのおそれがあります



禁止

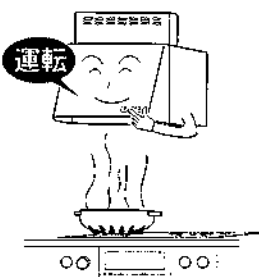
- レンジフードファンの上に物を置かないこと
落下してけがをしたり、火災や故障の原因となります



使用上のお願い

- 調理器具を使用するときは、必ずレンジフードファンを運転してください

運転しないとフード内の温度が上がり、製品の損傷や高熱による故障の原因となります



- キッチンの気温が低いときに使用された場合にはレンジフードファンの表面が結露することがあります

この場合は拭き取って使用してください

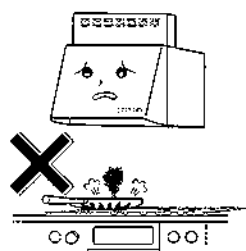
- 部屋の扉や窓からの風が強い場合には、横風等の影響で煙の捕集性能が悪くなる場合があります
レンジフードファン近辺の扉や窓からの横風等の影響がないようにしてください

- レンジフードファンの運転中は給気をおこなってください

レンジフードファン反対側の壁に空気の入入口を設けるか、部屋の扉を少し開けてください。空気の取り入れが不十分ですと換気性能が低下します

- 調理器具の空焚きは絶対にしないでください

製品の損傷や高熱による故障の原因となります



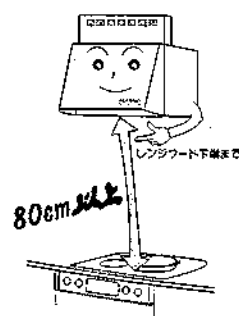
- エアコンの風が直接あたらないようにしてください

風を受けると、吸い込みが悪くなります。オープンな場所では特にレンジフードファンから漏れやすくなります

- IHクッキングヒーター（電気こんろ）を使用時、レンジフードファンがあたまりにくいいため、結露（水滴）が生じることがあります
お手数ですがその際は滴下する前に拭き取ってご使用ください
特に冬期など気温の低い状況では結露がしやすくなりますのでご注意ください

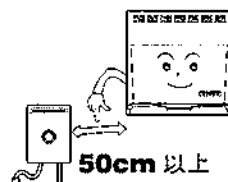
- 調理器具の真上、80cm以上に取り付けられているか確認してください

火災予防のため、火災予防条例ではグリスフィルターの下端が調理器具の真上、80cm以上必要です



- 湯沸器はレンジフードファンから50cm以上離してください
レンジフードファンの下部には湯沸器を絶対に取り付けしないでください

製品の損傷や高熱による故障の原因となります

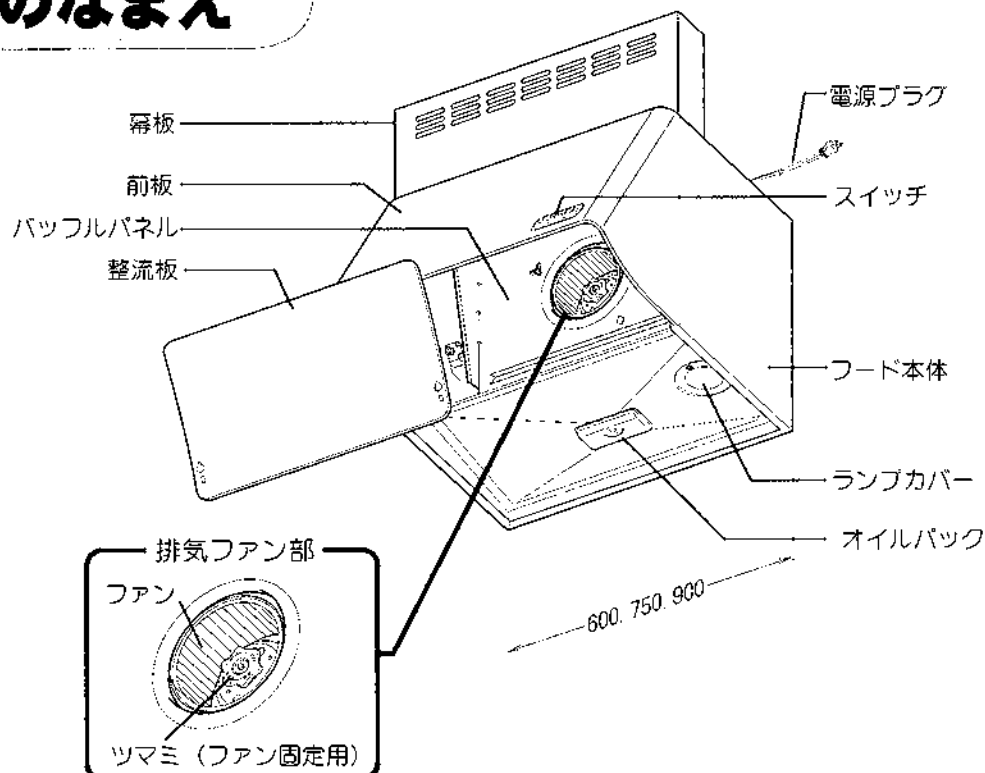


- グリル付の調理器具と合わせて使用する場合、グリル排気口から出る煙によって、壁パネルもしくはランプカバー表面が結露することがあります。

この場合は拭き取って使用してください

使いかた

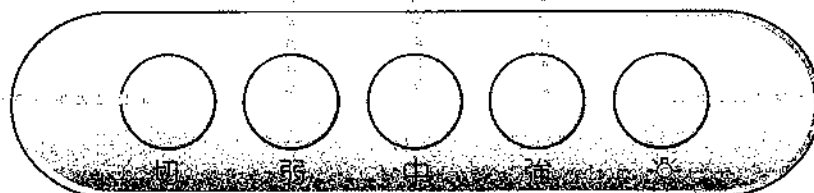
各部のなまえ



スイッチ

● ● ● 運転・風量切替スイッチ

弱：煙の少ないとき。静かに運転したいとき。
 中：通常の運転のとき。
 強：煙の多いとき。早く換気したいとき。



● 切スイッチ

通常、調理が終わった後は、●スイッチを押してください。
 ※ 照明は消えませんが、照明スイッチを押すと消えます。

● 照明入／切スイッチ

押すと照明が点灯します。スイッチを押すたびに点灯／消灯を繰り返します。

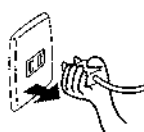
お手入れのしかた

警告

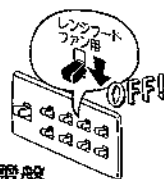


プラグを
抜く

- お手入れの際は必ず電源プラグをコンセントから抜く、または分電盤のブレーカを切ること
また、ぬれた手で抜き差し、入/切しないこと
感電やけがをすることがあります



分電盤



水かけ禁止

- 電気部品（モータ・スイッチ等）は、水・洗剤等の液体につけたりかけたりしないこと
ショート・感電のおそれがあります



注意



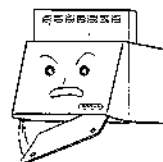
手袋をする

- お手入れの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります



取付注意

- お手入れの際にははずした前板やファン、部品の取り付けは確実におこなうこと
落下によりけがをするおそれがあります



お手入れの際のお願い

- おそうじはこまめにする
・油が付着した状態で長期間ご使用になりますと、酸化した油で塗装面が変質して塗装はがれの原因になります。【変質がひどいと擦っただけではがれることがあります。】
早めにおそうじいただきますと、汚れが簡単に落とせると同時に塗装面の劣化も防げます。

- 中性洗剤を使う
・おそうじの際には台所用中性洗剤をご使用ください。右図のものを使用されますと塗装面が変色したり、キズがついたり、はがれたりするおそれがあります。汚れがひどく、アルカリ性合成洗剤を使われる場合は、洗剤に表示されている使用上の注意をよくお読みになって、目立たないところで試してからご使用ください。

レンジフードファンの油污れ落としに最適な、弊社推奨の弱アルカリ合成洗剤「サットレールスプレー」「サットレールシート」があります。お問い合わせは裏表紙をご覧ください。



- 熱湯は変形のもと
・60℃以上の熱湯は使用しないでください。樹脂部品が変形するおそれがあります。
- ファンを変形させない
・ぶついたり、落としたりして変形したファンで運転すると、振動や異音が発生するおそれがあります。
- ファンなしでは運転しない
・ファンをはずした状態で運転しないでください。モータが過熱して故障の原因になります。

お手入れのしかた

取りはずしのしかた

※ お手入れは前板をはずさなくてもおこなえます。

前板をはずしてお手入れをおこなう場合は
13、14 ページをご覧ください。

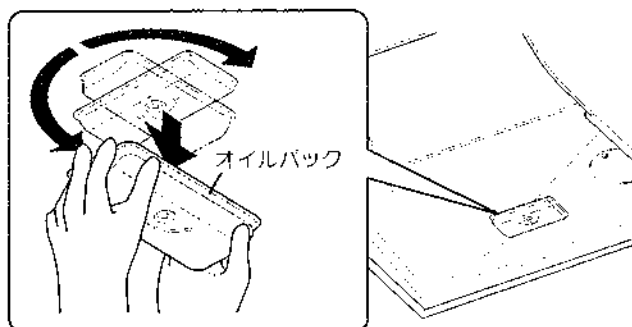
※ イラストは説明のため前板を省略しています。

オイルパックをはずします。

オイルパックを持って左右いずれかの
方向へ90度回転させて取りはずします。

お願い

- 中にたまっている油をこぼさないようご注意ください。
- ご使用の状況により、油がたまらないことがあります、異常ではありません。

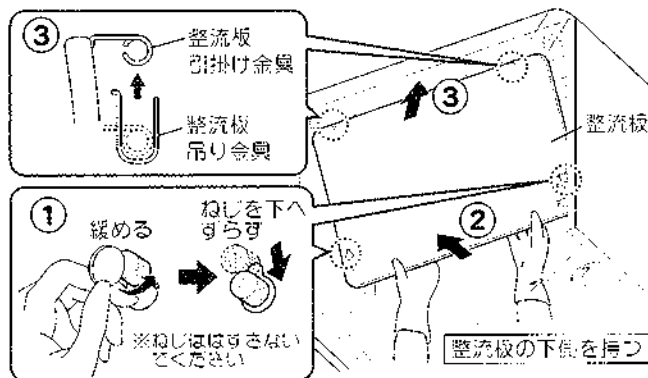


整流板をはずします。

- (1) 整流板左右下側のローレットねじ
2本をゆるめてだるま穴の中心位
置まで下へずらし、下側を手前に
開きます。
- (2) 下側を両手で支えながら上へ押し
上げて本体上側の整流板吊り金具
からはずし、整流板を手前に取り
はずします。

お願い

- 取りはずしの際は、整流板に油がたまっている場合がありますので、
油ダレに十分ご注意ください。
- 整流板のお手入れの際は、整流板引掛け部などを変形させないように
ご注意ください。

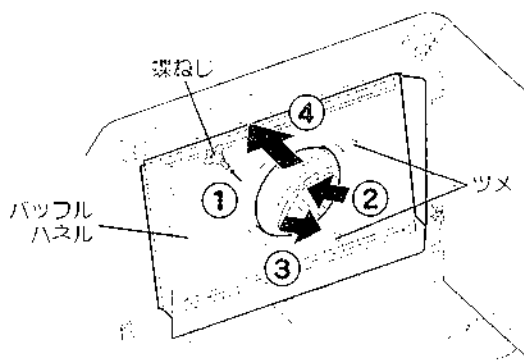


バッフルパネルをはずします。

- (1) ファン左側の蝶ねじをはずします。
- (2) バッフルパネルを左へスライドさ
せて右側2カ所のツメをはずし、
手前に取りはずします。

お願い

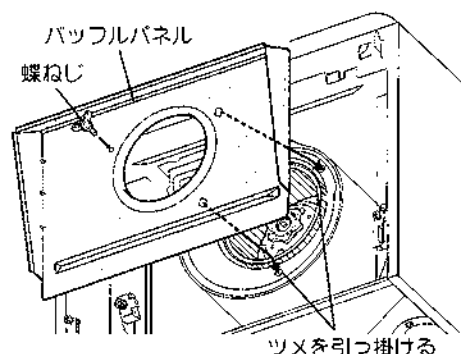
- 2カ所のツメをはずしたあと(右図②)、バッフルハネル
をいったん取り付いていた位置まで戻してから(右図③)、
(右図④)の方向にはずしてください。



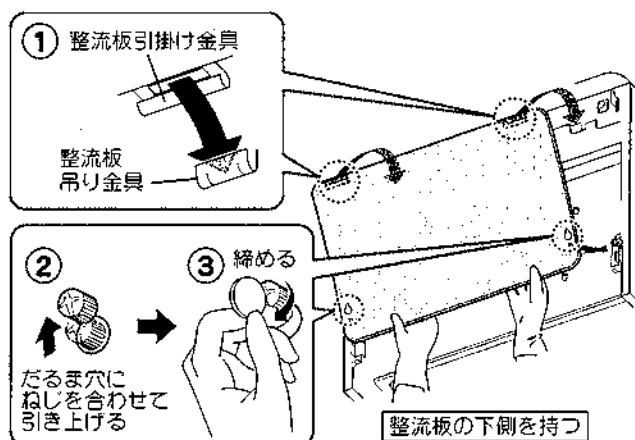
お手入れのしかた

組み立てのしかた

- 1** バッフルパネルを取り付けます。
- (1) バッフルパネルのツメ2カ所を本体の引掛け部に引っ掛けます。
- (2) 蝶ねじで固定します。



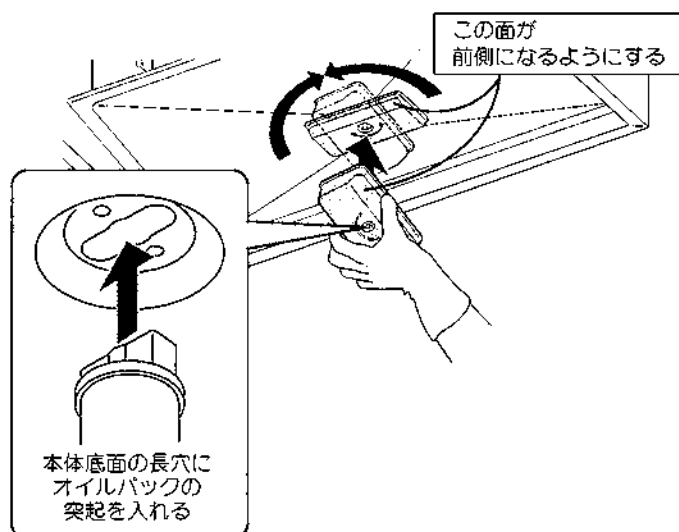
- 2** 整流板を取り付けます。
- (1) 整流板下側を両手で支えるように持ち、整流板引掛け金具を本体上側左右にある整流板吊り金具に引っ掛けます。
- (2) 整流板左右下側のだるま穴を本体のローレットねじ2本に合わせ、ねじを上へスライドさせてからしっかりと締め付けます。



お願い

- 整流板の固定は、確実にしておこなってください。取り付けが不十分だと落下の原因になります。
- ローレットねじは電動工具で締め付けないでください。ねじが破損するおそれがあります。

- 3** オイルパックを取り付けます。
- 本体底面の長穴にオイルパックの突起を差し込み、オイルパックの前面を確認して左右いずれかの方向へ90度回転させて固定します。



お手入れのしかた

お手入れのしかた

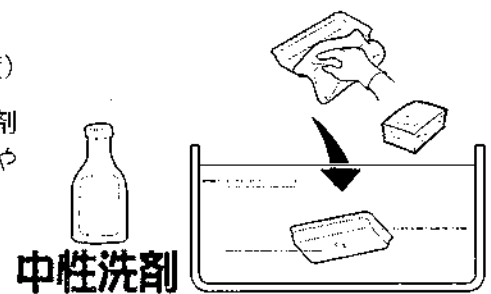
取りはずしのしかた、組み立てのしかたは7、8ページをご参照ください。

あまり汚れないうちに掃除してください。期間が長くなると、油が固まって汚れが落ちにくくなります。
特にオイルパック・整流板は月に1回程度お掃除してください。
(ご使用の状況により、汚れ具合が異なります。)

■ オイルパック

(汚れたらその都度お手入れしてください。目安: 1ヶ月に1回程度)

柔らかい布などで油をふき取ってから、ぬるま湯で薄めた中性洗剤に浸した、柔らかいスポンジや布で洗ってください。金属ブラシやタワシなど、傷の付くもので洗わないでください。



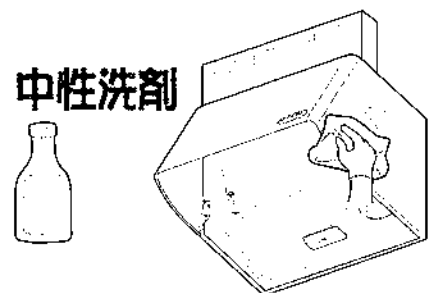
■ 本体・整流板・バッフルパネル・前板

(汚れたらその都度お手入れしてください。目安: 1ヶ月に1回程度)

中性洗剤溶液に浸した布で汚れをふきとったあと、洗剤が残らないよう、清水で湿らせた布で洗剤を良くふきとってください。

お願い

- はずした整流板は平らな面でお手入れしてください。
(変形・キズの原因となります。)



※ 完了後は再び電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。
また、ブレーカを「切」にした場合は、ブレーカを上げて「入」にしてください。

お手入れのしかた

ファンのお手入れのしかた

レンジフードファンを長期にお使いになり、汚れがひどい場合でファンもお手入れする場合には次の手順でお手入れを行ってください。

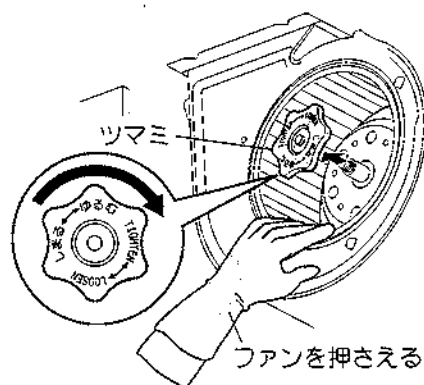
※ お手入れの際は必ず、分電盤のレンジフードファン専用のブレーカを下げ（電源を切って）ください。

■ ファンのはずしかた

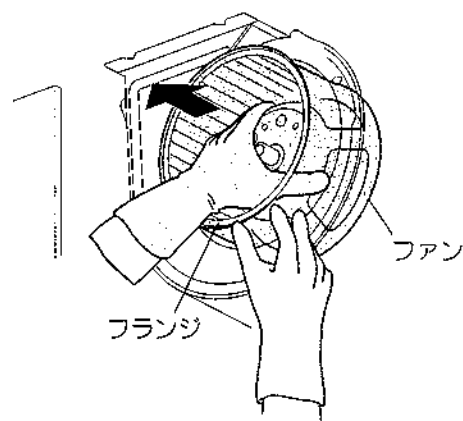
- 1 オイルパック・整流板・バツフルパネルをはずします。
(はずしかたは7ページを参照してください)

- 2 ツマミをはずします。
ファンが回らないように軽く押さえ、
ツマミを「ゆるむ」(時計回り)の方向に
回してはずします。

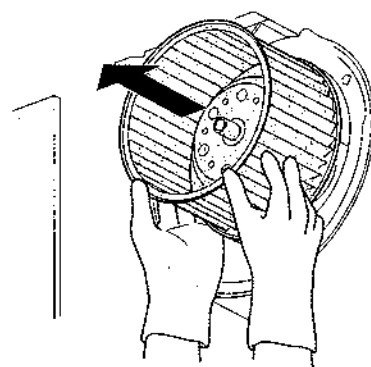
※ ファンは軽く押さえてください。
強く押さえると変形することがあります。



- 3 ファンを手前に引き出します。
ファンの中央にあるフランジを持ち、
少し手前に引き出します。



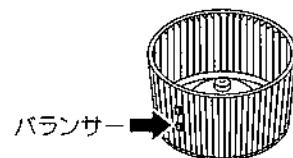
- 4 ファンをはずします。
両手で持ちかえてファンを引き出します。



お手入れのしかた

お願い

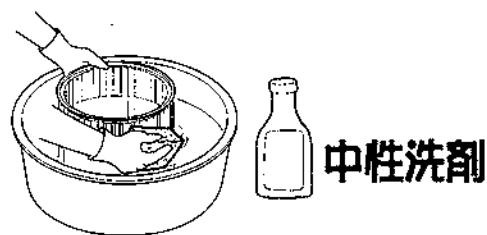
- ファンを強く押さえたり、ぶつけたり、落としたりして変形させないでください。
(異常な音や振動の原因となります。)
- ファンの回転バランスをとるために、ランサー（重り）がついている場合がありますが、絶対にはずさないでください。
(バランスがくずれ、吸い込みが悪くなったり、異音の原因となります。)
※ ランサーを紛失した場合は、新しいファンに交換してください。



■ ファンの洗いかた

ファンを本体からはずし、中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて洗ってください。

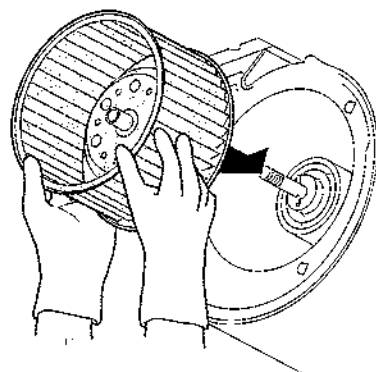
汚れを落としたあと、洗剤が残らないよう水洗いし、水気を取ってから取り付けてください。



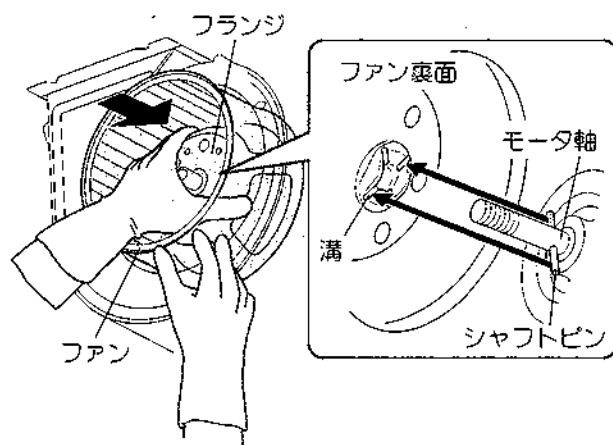
お手入れのしかた

■ ファンの取り付けかた

- 1 ファンを取り付けます。
ファンを両手で持ち、本体開口部からファンを入れます。



- 2 ファンを取り付けます。
ファン中央のフランジ部を持ってフランジ中央の穴にモータ軸を通し、ファンを確実に奥まで差し込んでください。



お願い

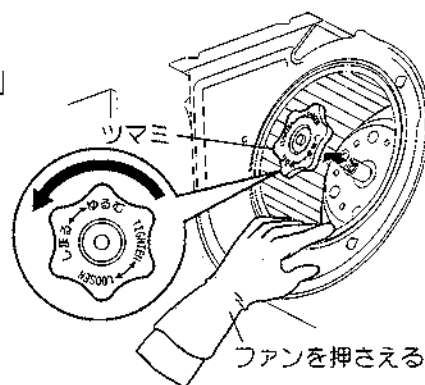
- ファンは裏面の溝がシャフトピンに合うよう確実に奥まで差し込んでください。
(異常な音や振動の原因となります。)

- 3 ツマミを取り付けます。
ファンが回らないように軽くおさえ、ツマミを「しまる」(反時計回り)の方向に回して締め付けてください。

※ ファンは軽くおさえてください。
強くおさえると変形することがあります。

お願い

- ファンは確実に取り付けてください。
(異音や故障の原因となります。)



- 4 バッフルパネル・整流板・オイルバックを取り付けます。
(取り付けかたは8ページを参照してください)

※ 完了後は再び電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。
また、ブレーカを「切」にした場合は、ブレーカを上げて「入」にしてください。

お手入れのしかた

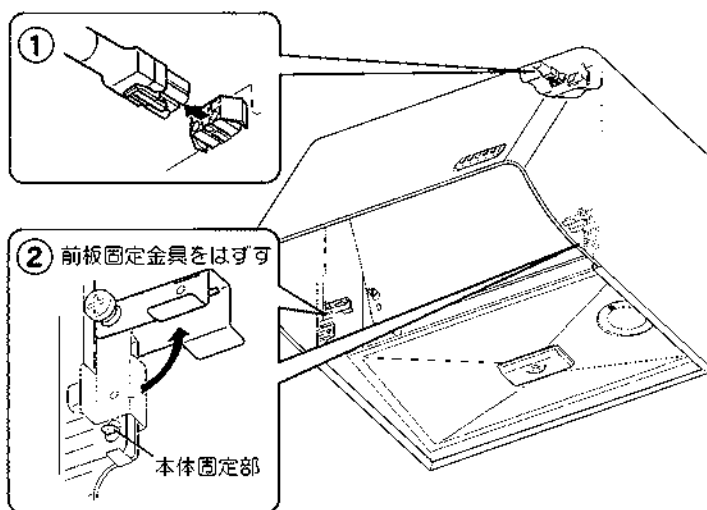
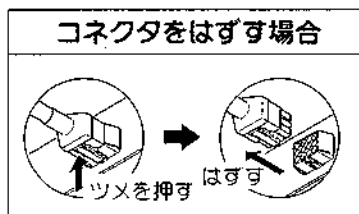
前板の取りはずし・組み立てのしかた

お手入れの際、必要に応じて前板を取りはずすことができます。

※ お手入れの際は必ず、分電盤のレンジフードファン専用のブレーカを下げて（電源を切って）ください。

■ 前板のはずしかた

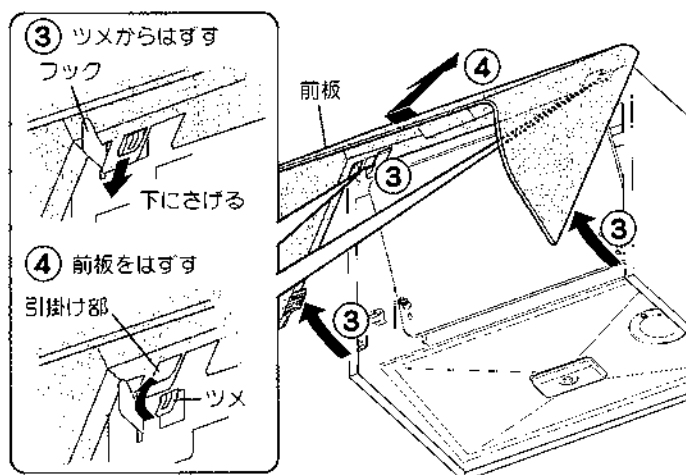
- 1 コネクタをはずします。
コネクタのツメ部を押しながら引き抜きます (①)。



- 2 ロックをはずします。
前板固定金具を内側に回転させてロックを解除します (②)。

- 3 上部のツメをはずします。
前板の下側を手前に引き、前板全体が下に下がるとフックに引っかかり、ツメからはずれます (③)。

- 4 前板をはずします。
前板上部を手前に引きながら上に持ち上げてはずします (④)。



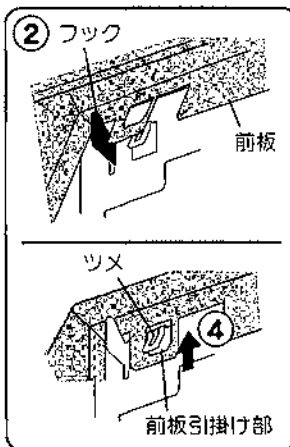
お手入れのしかた

■ 前板の取り付けかた

1

前板をセットします。

本体左右の前板固定金具を内側に開いた状態にし(①)、前板上部を本体のフックに引っ掛けます(②)。



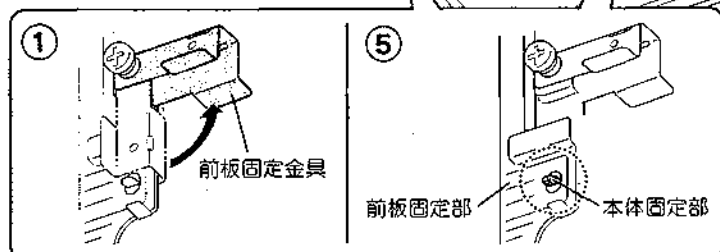
2

前板を下ろします。

前板を矢印の方向に下ろし(③)、下りきった状態で上にスライドさせます(④)。

2ヶ所の前板引掛け部が本体のツメに引っ掛かり、下側の前板固定部に本体固定部がはめ込まれます(⑤)。

※ 前板引掛け部および前板固定部で前板が確実に固定されていることを確認してください。



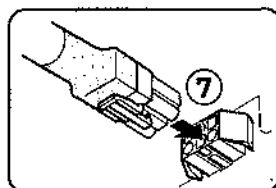
3

前板を固定します。

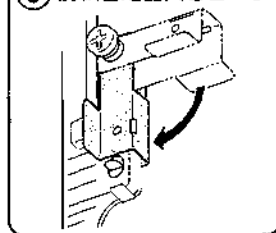
前板固定金具を下ろしてロックします(⑥)。

※ 前板固定金具は確実にロックしてください。

取り付けが不十分だと前板落下の原因になります。



⑥ 前板固定金具をロック



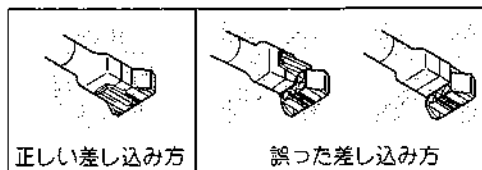
4

コネクタを接続します。

差し込む際はコネクタの向きに注意してください(⑦)。

お願い

- コネクタを挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。
接続が不十分な場合、レンジフードファンが動作しない、発熱による故障などの原因となります。



お手入れのしかた

ランプ交換のしかた

お願い

ご使用のランプが切れたときは、市販のミニ白熱電球
(定格100V 40W・口金径17mm)を購入し交換してください。

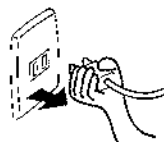
- 電球型蛍光ランプは使用しないでください。故障の原因となります。

警告



プラグを
抜く

- ランプを交換するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く、または分電盤のブレーカを切ること
感電のおそれがあります



分電盤

注意



使用禁止

- 指定以外のランプを使わないこと
ランプカバー周辺が高温となり、やけどのおそれがあります



高温注意

- ランプの交換は、ガラスやランプが十分冷めてからおこなう
やけどのおそれがあります



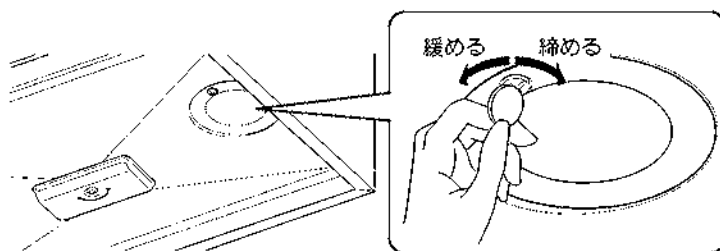
手袋をする

- お手入れの際は、必ず厚手の手袋をすること
鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります



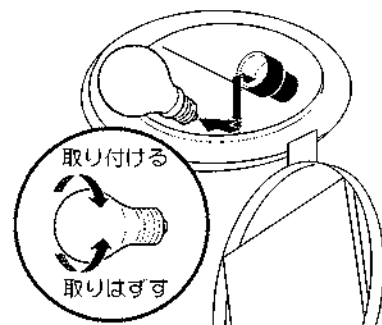
1 ランプカバーを開きます。

ランプカバーを手で支えながら、取付ねじ1本をコインまたはドライバーで緩めて開きます。



2 ランプをはずします。

切れたランプを取りはずし、ソケットに新しいランプを確実に固定します。



3 ランプカバーを閉じます。

ランプカバーの取付ねじをしっかりと締め付けてください。

お願い

- 取付ねじは電動工具で締め付けしないでください。
ねじが破損するおそれがあります。

※完了後は再び電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。
また、ブレーカを「切」にした場合は、ブレーカを上げて「入」にしてください。

故障かなと思ったら

修理を依頼されるまえに 次の点をもう1度お調べください。

症 状	考えられる原因	処 置
●スイッチを入れてもファン・照明の電源が入らない。 ●ファンがまわらない。	●分電盤のブレーカが「切」になっている。 ●電源プラグがはずれている。 ●スイッチのコネクタの挿入が不十分。	●分電盤のブレーカを「入」にする。 ●電源プラグを差し込む。 ●コネクタをロックするまで確実に挿入する。(14 ページ参照)
●照明がつかない。	●電球が切れている。 ●電球の取り付けがゆるんでいる。	●電球の交換をする。 ●電球を取り付け直す。(15 ページ参照)
●異常音がする。	●ファンのツマミがゆるんでいる。 ●バッフルパネルの取付ねじがゆるんでいる。 ●ファンの取り付けが不十分。 ●外からの給気が十分でない。	●ファンのつまみを締め直す。(12 ページ参照) ●バッフルパネルの取付ねじを締め直す。(8 ページ参照) ●窓・給気口を開け、十分な給気を確保する。
●吸い込みが悪い。	●給気が十分でない。 ●エアコンや窓からの風があたっている。 ●屋外のベントキャップの防鳥網が目詰まりしている。 ●屋外の防火ダンパーが閉じていて、排気されない。 防火ダンパー 防鳥網	●窓・給気口を開け、十分な給気を確保する。 ●風があたらないようにする。 ●修理を依頼する。 ●修理を依頼する。

仕様

性能	定格電圧 (V)	ノッチ	定格周波数 (Hz)	消費電力 (W)	風量 (m ³ /h)		騒音 (dB)	製品質量 (kg)
					0 Pa	100 Pa		
BL Ⅲ型相当品	100	強	50	95	590	460	45	600 幅 : 13
			60	110	555	470	44	
		中	50	55	335	—	32	750 幅 : 14.5
			60	55	300	—	30	
		弱	50	31	210	—	22	900 幅 : 16
			60	30	190	—	21	

消費電力、風量、騒音の測定は JIS C9603 による。

レンジフードファンに使用している部品は、性能向上などのために一部変更することがあります。

アフターサービス（必ずお読みください）

補修用性能部品の最低保有期間

- 当社はこの製品の補修用性能部品を製造打ち切り後6年間保有しています。
(補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

- 製品の保証期間は、お買い上げ後取扱説明書、本体貼付ラベルの注意書に従った正常なご使用状態において1年間です。

ただし、次の場合には保証期間内でも有料になります。

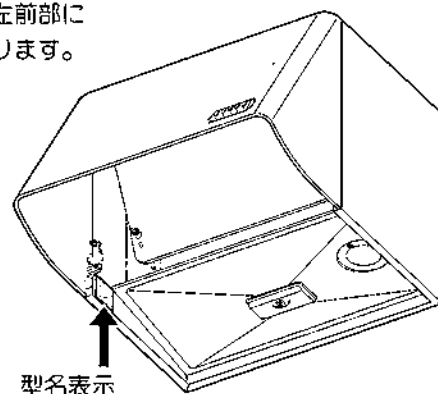
- (1) 火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、異常電圧等不慮の事故により生じた故障および損傷。
- (2) 使用上の誤り、改造等による故障および損傷。

修理を依頼されるときは

16 ページに従って調べていただき、なお異常のあるときはご使用を中止し、必ず電源プラグを抜くか、分電盤のブレーカを切ってから、お買い上げの販売店にご連絡ください。

ご連絡していただきたい内容	
品 名	レンジフードファン
型 名	
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご住所	付近の目印なども併せてお知らせください。
お名前	
電話番号	
訪問ご希望日	

レンジフードファンの型名は、
本体内側の左前部に
表示してあります。



愛情点検



ご使用の際、
このような
症状はあり
ませんか？

- スイッチを入れても、動かないときがある。
- 運転中に異常な音や振動がある。
- 焦げ臭いにおいがする。
- その他、異常・故障がある。



ご使用
中 止

このような症状のときは、故障や事故防止のため、ブレーカを切り、必ず販売店に点検・修理をご相談ください。

修理料金の仕組み

- 修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。
- 技術料は、診断・故障箇所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
- 部品代は、修理に使用した部品および補助材料代です。
- 出張料は、お客様のご依頼により、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

長期使用製品安全表示制度に基づく本体表示について

(本体への表示内容)

※ 経年劣化により危害の発生が高まるおそれがあることを注意喚起するために電気用品安全法で義務付けられた右の内容の表示を本体におこなっています。

(設計上の標準使用期間とは)

※ 運転時間や温湿度など、標準的な使用条件に基づく経年劣化に対して、製造した年から安全上支障なく使用することができる標準的な期間です。

※ 設計上の標準使用期間は、無償保障期間とは異なります。また、偶発的な故障を保证するものでもありません。

● 「経年劣化とは」
長期間にわたる使用や放置に伴い生ずる劣化をいいます。



【製造年】本体に西暦4ケタで表示してあります。

【設計上の標準使用期間】10年

設計上の標準使用期間を超えてお使いいただいた場合は、経年劣化による発火・けが等の事故に至るおそれがあります。

■標準使用条件

日本工業規格 JIS C 9921-2 より引用

環境条件	電圧	単相 100V	
	周波数	50Hz 又は/及び60Hz	
	温度	20℃	JIS C 9603参照
	湿度	65%	JIS C 9603参照
	設置条件	標準設置	取付説明書による
負荷条件		定格負荷 (換気量)	取扱説明書による
想定時間	1年間の使用時間	換気時間 ^{a)}	
		台所 2 410時間/年	
注 ^{a)} 常時換気 (24時間連続換気) のものは、8 760時間/年とする。			

お客様の個人情報のお取り扱いについて

当社および当社関係会社 (以下「当社」) は、お客様よりお知らせいただいたお客様の氏名・住所などの個人情報 (以下「個人情報」) を、下記の通り、お取り扱いします。

1. 当社は、お客様の個人情報を、当社製品のご相談への対応や修理およびその確認などに利用させていただきます、これらの目的のためにご相談内容の記録を残すことがあります。

なお、修理やその確認業務を当社の協力会社に委託する場合、法令に基づく義務の履行または権限の行使のために必要な場合、その他正当な理由がある場合を除き、当社以外の第三者に個人情報を開示・提供いたしません。

2. 当社は、お客様の個人情報を、適切に管理します。

3. お客様の個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

修理依頼について

修理を依頼されるときは、お買い上げの販売店、またはシステムキッチンメーカーにご連絡ください。

	購入店名	電話	()
お客様メモ	(システムキッチンメーカー名:)		
	ご購入年月日	平成	年 月 日

『サットレールスプレー』『サットレールシート』の
お取り扱い窓口は
フジテックメンテナンス株式会社

お申し込み・お問い合わせ ☎0120-227-266
FAX 042-768-3383
ホームページ <http://www.fuji-tech.jp/>
受付時間 9:00～17:45 (土、日、祝日、夏季休暇、年末年始を除く)

(製造元) 富士工業株式会社
〒229-0006 相模原市淵野辺2丁目1番9号

お客様ご相談窓口 ☎0120-071-686
受付時間 9:00～18:00 (土、日、祝日、夏季休暇、年末年始を除く)